

早期景気観測調査

【10-11月期 調査結果概要報告書】

平成25年12月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成25年11月15日(金)～30日(土)
4. 調査対象： 当所会員 159事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 109（付帯調査回答数：104）
7. 有効回答率： 68.6%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第2位で四捨五入

◆結果概要

【10－11月期の動き】

業況DIは、大幅改善。 先行きは好材料に乏しく、慎重な判断

10－11月期の全業種総合の業況DIは▲22.0と、前期から12.2ポイント改善し、3期ぶりの業況改善となった。収益改善の足かせとなっていた燃料・原材料等の価格上昇に一服感が見られるとともに、売上も改善しており、採算に好転の兆しが見られる。一方、従業員については不足感が増しており、金融機関の貸出し姿勢は若干改善した。

業種別では、全ての業種で業況が改善しており、製造業・非製造業を問わず企業心理に改善が見られる。

前期に業況が悪化した製造業は、再び改善に向かっており、仕入単価も大幅に下落している。建設業では、4期連続の業況改善となり、順調な回復を窺わせるが、一部では人手不足との声も聞かれる。卸売業についても、2期連続の業況改善となり売上也改善傾向にあるが、仕入単価の上昇には歯止めがかかっていない。一方、小売業は、4期ぶりの業況改善となり、全てのDIが改善している。また、サービス業でも、大幅に業況が改善しており、売上・採算共に改善傾向にあるが仕入単価は上昇となった。

先行きに関しては、先行き業況DIが▲20.2（今期比+1.8ポイント）となっており、若干の改善に止まる見通しである。県内経済は、製造業や卸売業の回復が期待されるものの、燃料や原材料価格の上昇・高止まりへの警戒感は依然根強く、消費増税も控えていることなどから、先行きは慎重な判断となっている。

【付帯調査】～2014年の景気見通し(今年比)について～

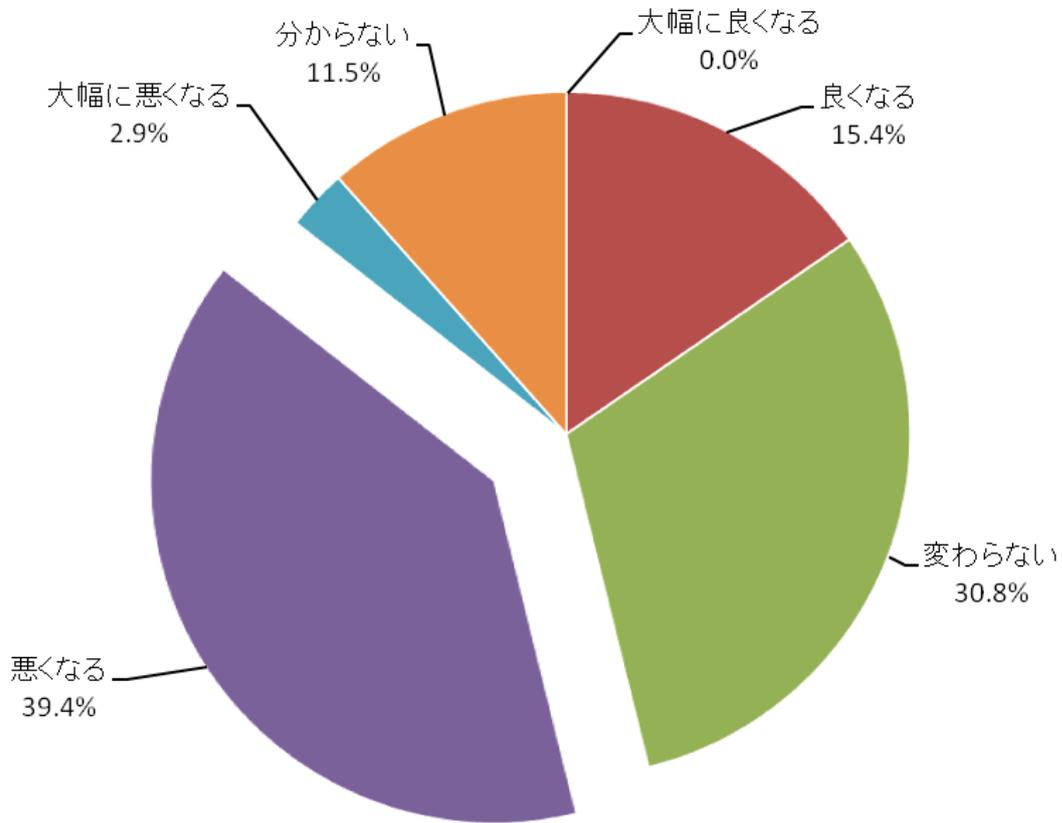
景気「悪くなる」4割

付帯調査として、「2014年の景気見通し(今年比)」について択一回答で尋ねたところ、「(大幅に)悪くなる」と回答した事業所が42.3%（44事業所）と最も多く、ついで「変わらない」（30.8%）という結果になった。一方で、「(大幅に)良くなる」と回答した事業所は15.4%（16事業所）に止まり、「分からない」は11.5%（12事業所）であった。

業況D I の推移



2014年の景気見通し(今年比)について

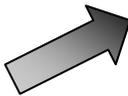


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

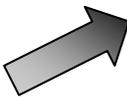
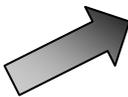
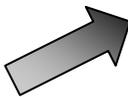
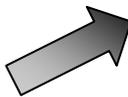
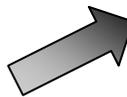
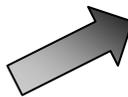
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「↗」 (改善) と表示しております。
 従業員D I は、従業員が不足している場合、「↗」 (改善) と表示しております。

◆全業種総合

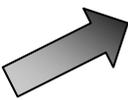
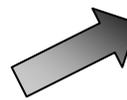
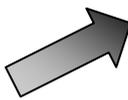
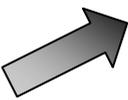
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 22. 0	▲ 20. 2	▲ 6. 4	▲ 34. 9	▲ 54. 1	7. 3	▲ 1. 8

10-11月期の全業種総合の業況D I は、**▲22. 0** (前期比+12. 2ポイント) となり、3期ぶりの改善となった。売上D I ・採算D I も3期ぶりに改善しており、仕入単価D I は8期ぶりの改善となった。また、従業員D I ・金融貸出しD I についても改善している。

先行きに関しては、改善を予測している。

◆ 業種別

製造業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲15.4	▲7.7	7.7	▲23.1	▲38.5	▲3.8	▲7.7

業況D Iは、改善に転じた。売上D Iも改善に転じており、仕入単価D Iは3期ぶりの改善となった。しかしながら、採算D Iは2期連続で悪化している。一方、従業員D Iは2期連続で改善しており、金融貸出しD Iは3期ぶりの悪化となった。

先行きに関しては、改善を予測している。

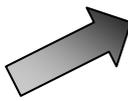
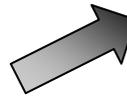
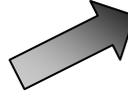
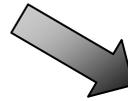
建設業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
0.0	▲19.0	19.0	▲23.8	▲66.7	4.8	4.8

業況D Iは、4期連続の改善となった。また、売上D Iも6期連続で改善しており、採算D I・仕入単価D Iも改善に転じた。一方、従業員D Iは2期連続で悪化しており、金融貸出しD Iも悪化に転じている。

先行きに関しては、大幅な悪化を予測している。

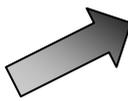
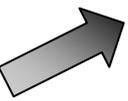
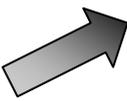
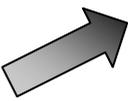
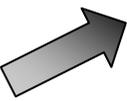
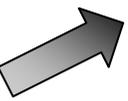
卸売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 37.5	▲ 6.3	18.8	▲ 37.5	▲ 81.3	6.3	0.0

業況D Iは、2期連続の改善となった。売上D Iも4期連続で改善している。しかしながら、採算D Iが3期ぶりの悪化となり、仕入単価D Iは4期連続で悪化している。一方、従業員D Iは2期連続で改善しており、金融貸出しD Iは2期連続の悪化となった。

先行きに関しては、大幅な改善を予測している。

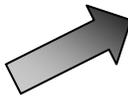
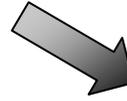
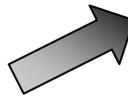
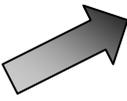
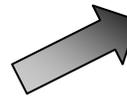
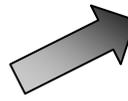
小売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 42.9	▲ 39.3	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 35.7	10.7	0.0

業況D Iは、4期ぶりの改善となった。売上D Iも3期ぶりの改善となり、採算D Iは4期ぶりに改善している。また、仕入単価D Iについても5期ぶりの改善となった。加えて、従業員D I・金融貸出しD Iも共に3期ぶりに改善している。

先行きに関しては、改善を予測している。

サービス業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 27.8	▲ 66.7	22.2	▲ 5.6

業況D Iは、2期連続の改善となった。売上D Iも2期連続で改善しており、採算D Iは3期ぶりに改善している。しかしながら、仕入単価D Iは悪化に転じている。一方、従業員D Iは改善に転じており、金融貸出しD Iも3期ぶりの改善となった。

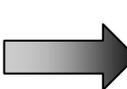
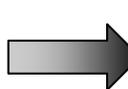
先行きに関しては、悪化を予測している。

◆ 業種別詳細

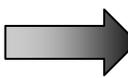
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

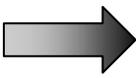
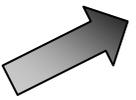
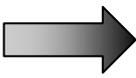
製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

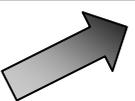
製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

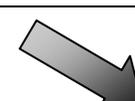
建設業（建築）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

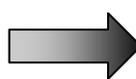
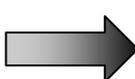
建設業（土木）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

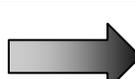
建設業（鉄鋼）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

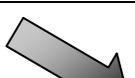
卸売業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

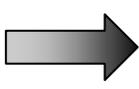
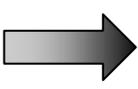
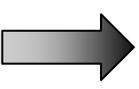
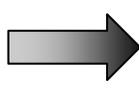
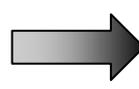
卸売業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

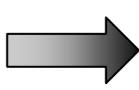
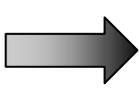
卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

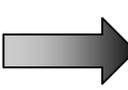
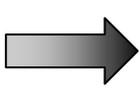
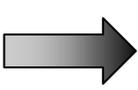
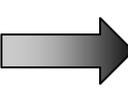
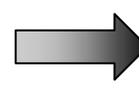
小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

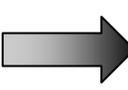
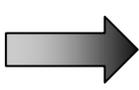
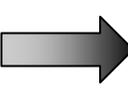
小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

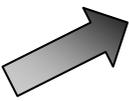
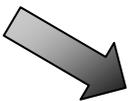
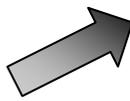
小売業（趣味・日用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

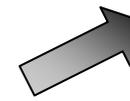
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

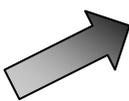
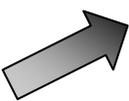
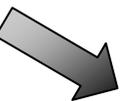
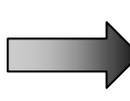
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

【製造業】

製造業（食品）

- ・製麺に関しては大手市場となり、中小の事業所は整理される。
- ・売上は好調を持続するも、原料高。
- ・25年度の新酒は、11月2日の解禁日を前に全量予約で完売となり、甲州ワインの動向は当面明るいと考えられる。

製造業（家具）

- ・消費増税後の景気が心配。政府が経団連等と通じて企業に要請していることはけしからん。

製造業（工業製品）

- ・スマホは高性能モデル一辺倒から、中低価格モデルへの製品多様化が進み、水晶デバイス業界においては、価格競争やシェア争いが一段と激化し収益環境は厳しい。
- ・海外、特に東南アジアの景気が当面良くなると日本の流れは良くなるとはならない。
- ・4月以降（実質は3月）が不安。

製造業（宝飾）

- ・材料等の輸入コストの上昇と売上低迷が続き、採算の悪化傾向が強い。3月までは駆け込み需要が起きると思うが、4月以降の消費低迷のリバウンドの方が強いと思われる。
- ・消費税の増税は、ジュエリー業界にとっては影響が大きい。
- ・消費増税後の消費者の動向を注視している。

【卸売業】

卸売業（その他）

- ・原油の仕入価格が高止まりしており、販売価格に転嫁できず、採算は悪化している。
- ・円安による価格上昇により、売上・利益が悪化している。
- ・仕入単価上昇による採算悪化を食い止めるべく努力している。

【小 売 業】

小売業（趣味・日用品）

- ・消費税問題はとても大きいはず。
- ・平常、中心商店街への人出は皆無とも言える。結果的には、目的買い以外のお客様は来街しないということ。

小売業（家電）

- ・人手不足が続いている。
- ・競合店が増加しており、価格競争も出はじめ、業界に悪影響が出ている。

【サ ー ビ ス 業】

サービス業（ホテル、旅館）

- ・昨年は防災新館や市役所の建築に伴う宿泊があったが、今はそれがなく心細さを感じる。観光のお客様については、土曜日・祭日は以前とは違い多少ではあるが利用者が増えている。一方で、今までであれば、甲府駅から歩いてきたお客様が入ってくると、周りの小さな旅館へ配宿したが、大きなホテルが集客しており小規模は大変である。

サービス業（観光）

- ・秋の行楽シーズンを迎えているが、例年より観光客が少ない。

サービス業（飲食その他）

- ・売上高の落ち込みなど採算が悪化している。
- ・うなぎの仕入単価が夏の需要期を過ぎても上昇している。うなぎの未来はどうなっていくのか。日本の食文化が風前の灯火となっている。
- ・忘新年会のシーズンで売上はアップする見込み。

【建設業】

建設業（建築）

- ・ 2013年は公共・民間とも工事ラッシュだったため、2014年の冷え込みが懸念される。
- ・ 専門職が足りない。募集しても来ない（いない）。
- ・ 受注増だが、資材価格・人件費の急激な高騰により採算は悪化。
- ・ 売上が上がらず採算が悪い。アベノミクスの音がしない。

建設業（土木）

- ・ 職人（大工・鉄筋工ほか）の人手不足

建設業（鉄鋼）

- ・ 消費増税までは忙しいと思われる。
- ・ 年度末完成へ向けて手持ち仕事を消化していく。輸入原料の鉄鉱石は、やや下落。

